

## 靴磨き 50 年おばちゃん“閉店” 熊本市辛島町

2012.03.31 09:31 日刊紙

熊本市辛島町で、50年以上、靴磨きに精を出した「おばちゃん」(75)が30日、店じまいした。名残を惜しむ常連客に囲まれ、「汚れ仕事と思われるかもしれんけど、私は幸せもん」。真っ黒になった手で目頭を押さえた。

靴磨きを始めたのは昭和30年代前半。夫が急死し「母と娘を育てないかんかった」。知人の紹介でブラシを握ったという。当時、辛島町一帯には靴磨きを商う人が50人以上いた。「昔は靴はオーダーメイド。長く使うため、よく利用してくれた」といい、無休で働いた。「苦労とは思わないよ。みんな、夢中で働いたのよ」

しかし、最近は常連客も次々に定年を迎え、「客がない日もあった」。2年ほど前、交通事故で左脚を痛めた。「道具の出し入れを手伝ってくれた近くの駐車場の人も辞めるから、私も辞めることにした」

最終日。普段あいさつを交わしていた小学生からの手紙や、常連客からの花束に囲まれた。「本当によくしてもらった。『またよろしく』って、もう言われんね」。午後6時前、常連客からもらったという愛用の磨き台や座布団を袋に包んだ。



50年の靴磨き生活を終えた「おばちゃん」。常連客らのプレゼントや手紙に囲まれた  
=熊本市辛島町